

## 第72次 印旛地区教育研究会

国語「読むこと」分散会 提案資料

### 研究主題

主体的に考え、理解し、深く学ぶことのできる  
児童の育成



八街市立実住小学校

# 目次

## 1 研究主題

## 2 主題設定の理由

## 3 研究仮説

## 4 研究構想

## 5 実践例

- (1) 1 学年 写真と文からだれが何をしたかをたしかめよう  
～おはなしづくりをしよう～ 『うみへのながいたび』
- (2) 5 学年 本のすいせんをしよう  
～「図書すいせん会」を開こう～ 『雪わたり』
- (3) 6 学年 “自分の心の世界”について考え、文章で表現しよう。  
『ぼくの世界、君の世界』
- (4) 1 学年 つたえたいことをみぶりであらわそう  
～みぶりクイズでつたえよう～ 『みぶりで つたえる』

## 6 成果と課題

## 1 研究主題

主体的に考え、理解し、深く学ぶことのできる児童の育成

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領から

令和2年度から実施された学習指導要領では、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」をねらいとしている。

国語科では、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。」とし、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱を設定している。学習の中で自分の考えを「表現」するためには、学習内容をしっかりと理解することが必要となる。そのために、学習の中で言語活動を設定し、自分の考えを表現するために「読みを深める」活動を行う。

「読みを深める」ことについて、次のように考える。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握しながら学習の進め方について試行錯誤をする。また、学習したことをもとに自分の思いや考えを言語活動などの様々な場面で活用する。そして、学習したことをその後の学習に生かす。これらの活動の中で、受け身的に授業で学ぶのではなく、自ら考えて学ぶことができるような授業を行い、筆者の考えや登場人物の思いを読み取ったり、疑問に思ったことを探求したり、それを他者に伝える方法を見いだしたりすることによって、児童は主体的に考え、理解し、深く学ぶことができると考える。

### (2) 学校教育目標から

本校の学校目標は、「夢を抱き たくましく生きぬく 児童の育成」である。目指す児童像として①夢・目標をもって、進んで学習する子②明るく挨拶ができ、思いやりのある子③健康に気をつけ、命を大切にすることとしている。

たくましく生きるためには、問題意識をもち、解決するための目標を立て、それに向かって主体的に活動する必要がある。そのためには、知識・技能を身につけ、それを基に深く学ぶことのできる環境を整える必要がある。以上のことから、読みを深め、自分の考えを伝え合うことにより、考える力、感じる力、想像する力、表す力、漢字や語彙を活用する力などの日本語を運用する総合的な力である「国語力」を高めていきたいと考えた。

### (3) 児童の実態から

本校は児童数679人、通常学級20クラスと特別支援学級7学級があり、言語障害通級指導教室や日本語通級指導教室がある今年で130年目を迎えた学校である。各学年3から4クラスあり、縦割り活動などで他学年との関わりも多い。

本校は、八街市のほぼ中央に位置し、八街駅を中心とした商店街とそれをとりまく農業地域及び振興小団地地域で構成されている。児童は明るく人と関わることを好む面があり、様々な活動に積極的に取り組んでいる。一方で、人の気持ちを読み取ることや状況から柔軟に判断して行動することを苦手としている児童もいる。

千葉県標準学力検査では、「知識・理解」の正答率が全学年で県平均より低くなるという課題もあった。

国語科アンケートの結果からは、「国語の学習が好き」と答えた児童が77%だった。その内容としては、「物語文や説明文を読むことが好き」と答えた児童が27%で、文章を書いたり漢字を書いたりすることが好き」と答えた児童が41%だった。「話を聞いたり自分の考えを発表したりすることが好き」と答えた児童は32%だった。このことから、「読む」ことよりも、漢字練習などの決まったことを「書く」ことの方が好きだということがわかる。「文章から大事なことを見つけることが得意」と答えた児童は55%だった。苦手と答えた理由としては、「どこが大事か分からない」「聞かれている内容が分からない」「文章を読むことが苦手」と答えた児童が多かった。「勉強したことを生活に生かしたことがあるか」という質問に対しては、あると答えた児童は25%で、ないと答えた児童は75%だった。「ある」と答えた児童でも、「漢字や平仮名を使った」という内容だった。

以上のことから、大事なことは何か考えながら読んだり、学んだことを実体験で活用したりすることが必要だと考えた。そこで、課題を「自らの学習」としてとらえ、実感を伴った理解をすることにより、主体的に考え、理解し、深く学ぶことのできる児童が育成できると考えた。

### 3 研究仮説

#### (1) 仮説1

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。

#### <手立て>

児童が主体的に考えるためには、課題を「自らの学習」としてとらえる必要がある。そのためには、導入や指学習計画を工夫することによって児童に学習への興味・関心をもたせたり、その学習によって何が変容したのかを感じさせたりするなどして、児童の意欲を引き出すことが必要になってくる。そのための手立てとして以下の3つを考えた。

#### (1) 意欲関心を高める素材の提示

- ・紙芝居やパネルシアターの活用
- ・ワークシートの活用

#### (2) 最終ゴールの設定による学習の積み重ねを児童に感じさせる

- ・お話作りや学んだことを生かした発表会をするというゴールを設定
- ・他学年に学習したことを伝えるというゴールを設定

#### (3) 振り返りを生かした課題づくり

- ・学習計画で学習への見通しをもたせる
- ・前時までの学習を掲示物で振り返る
- ・振り返りから本時の課題を見出す

- ・学習を振り返り、自己評価をし、次時の学習に生かす

## (2) 仮説2

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。

### <手立て>

学びを深めるとは、「学んだことを活用して自ら探求すること」や「周りの考えと比べたり、合わせたりすること」だと考えられる。そのためには、児童一人一人が自分はどこまで分かったのか、という「自分の学び」を認知することが必要になる。そのための手立てとして以下の2つの手立てを考えた。

## (1) 言語活動の活用

- ・動作化の活用
- ・他学年に学習したことを伝える
- ・学習したことを紹介し合う

## (2) 体験活動や操作活動の活用

- ・付箋を活用して読み取ったことを整理する
- ・帯をつくっておすすめの本を紹介する

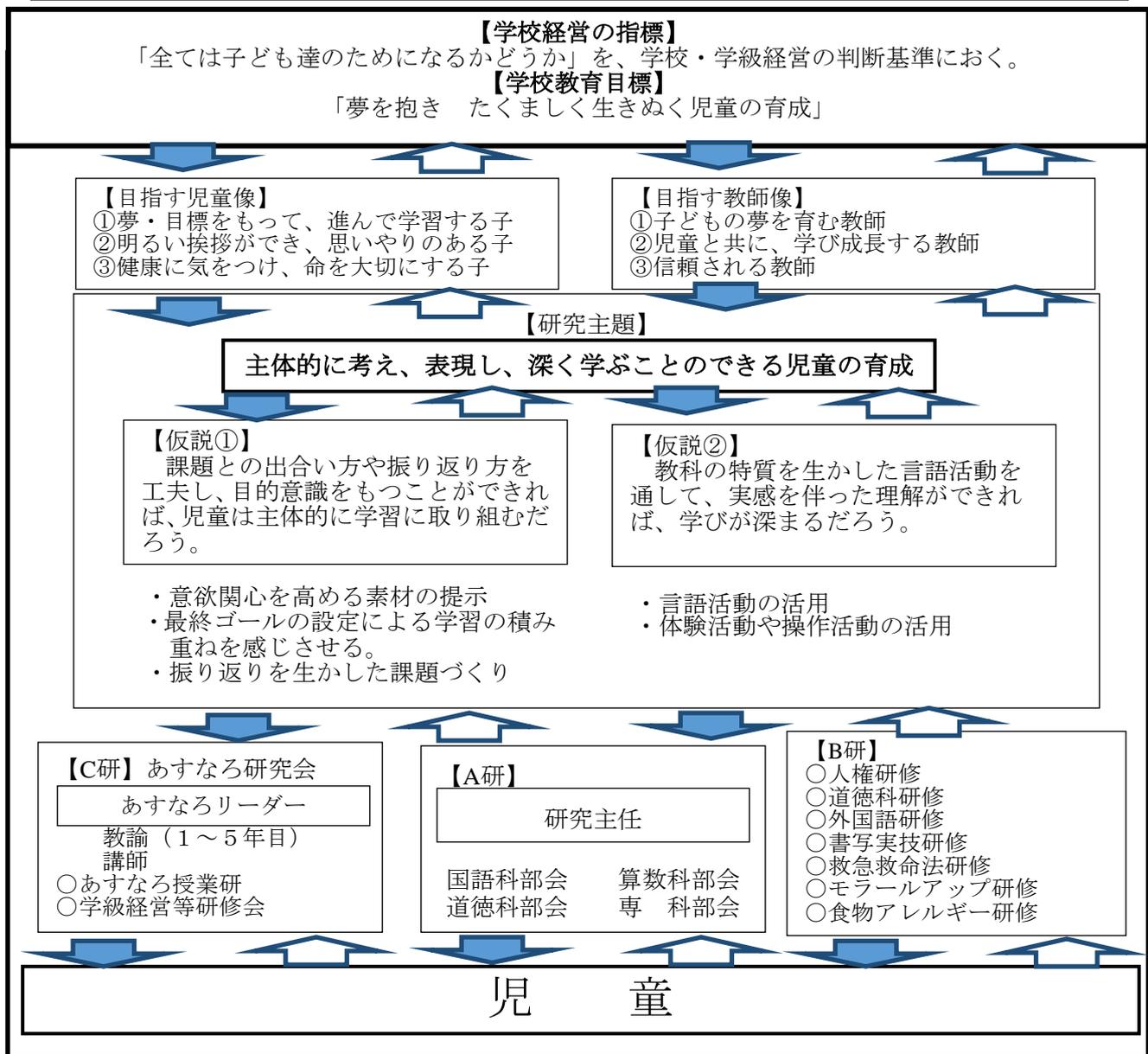
研究構想図

# 研究主題

## 主体的に考え、表現し、深く学ぶことのできる児童の育成

仮説 1  
 課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。

仮説 2  
 教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。



## 第1学年1組 国語科学習指導案

令和2年11月25日(水)

指導者

展開場所1年 1組 教室

- 1 単元名 写真と文からだれが何をしたかをたしかめよう ～おはなしづくりをしよう～  
(主な学習材：『うみへのながいたび』 今江祥智著 教育出版 )

### 2 単元について

#### (1) 単元観

本単元は、学習指導要領「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の以下の内容に基づいて設定したものである。

知識及び技能 (1) ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

思考力、判断力、表現力等 B (1) ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり、確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。

C (1) ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。

C (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

言語活動 B (2) ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。

本単元は、親子の白くまが海を目指す道のりを写真と文章を手がかりに読んでいく『うみへのながいたび』と、写真から吹き出しに入る言葉を考え、簡単なお話を書く『きこえてきたよ、こんなことば』の2つで構成されている。

児童はこれまでに『おおきなかぶ』や『けんかした山』といった物語教材に取り組み、挿絵をもとに登場人物がどのようなことをしているのか考えたり、場面がどのように進んでいくのかを読み取ったりしてきた。本単元の主な学習材である『うみへのながいたび』は、登場人物である白くまの親子が海を目指して長い旅をする過程が描かれ、白くまの兄弟の成長や、それを見守る母ぐまの様子がわかりやすく書かれている。白くまの親子がどのように海を目指していくのか、物語の中にある時間を表す言葉に着目しながらできごとを時系列で確認していく。この教材の特徴は、物語教材でありながら挿絵ではなく写真が用いられていることである。鮮やかな写真が児童の興味を惹くとともに、写真と文章がお互いに補完し合いながら教材の内容を理解していく役割を担っている。

『きこえてきたよ こんなことば』は、写真をもとに簡単なお話を想像する単元である。大きく写されたチョウの幼虫に吹き出しが付けられ、どのような言葉が発せられているかを想像しながら、「いつ」や「どこ」、「だれが」など『うみへのながいたび』で学んだことを活用してお話を考え、書き表していく。

本単元では写真と文章とを比べながら内容を読み取り、関係性について考える活動が中心となる。一人一人の発言を拾いながら、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」などを確かめ、内容を読み取ったり、想像したりしていく。単元の最後には、写真から想像したせりふを中心にして、簡単なお話を作る言語活動を行う。

(2) 児童の実態 (31名)

本単元を実施するにあたり、以下の調査を行った。

〈実態調査〉

アンケートの内容	児童の回答	
	回答	人数(人)
1 国語科の学習は好きですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好き</li> <li>・どちらかという人喜欢</li> <li>・どちらかという嫌い</li> <li>・嫌い</li> </ul>	<p>19</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>7</p>
2 それはどうしてですか。	<p>(好意的な理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいから、面白いから</li> <li>・字を書くのが好きだから</li> <li>・簡単だから</li> <li>・字が上手くなるから</li> </ul> <p>(否定的な理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・字をたくさん書くから</li> <li>・字が上手に書けないから</li> <li>・難しいから</li> <li>・簡単だからつまらない</li> </ul>	<p>12</p> <p>6</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>1</p>
3 国語科の学習で好きなことはなんですか。 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがな、かたかな、漢字</li> <li>・読書</li> <li>・音読</li> <li>・説明文</li> <li>・物語文</li> <li>・発表</li> <li>・作文</li> </ul>	<p>19</p> <p>17</p> <p>15</p> <p>13</p> <p>12</p> <p>9</p> <p>8</p>
4 わからない問題があったらどうしますか。 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で解く</li> <li>・家の人に聞く</li> <li>・友達に聞く</li> <li>・先生に聞く</li> </ul>	<p>25</p> <p>20</p> <p>12</p> <p>10</p>
5 国語科の学習はどんなときに役に立つと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人になったら</li> <li>・難しい字を読む</li> <li>・字を書く</li> <li>・友達に教えられる</li> <li>・無回答</li> </ul>	<p>8</p> <p>8</p> <p>5</p> <p>3</p> <p>7</p>

〈事前調査〉

アンケートの内容	児童の回答	
	回答	人数(人)
<p>問題を読んで答えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>たろうくんは、あさ ごはんをたべました。 おかあさんがつくって くれたごはんは、とて もおいしいです。 ごはんのあと、はみ がきをしました。 そして、じゅんぴを してからランドセルを せおきました。 「いってきます。」 たろうくんは、げん きにあいさつをして、 おうちをしゅっぱし ました。</p> </div> <p>1 たろうくんがやった順番になるように、□に 1・2・3の番号を書きましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  □         </div> <div style="text-align: center;">  □         </div> <div style="text-align: center;">  □         </div> </div> <p>2 たろうくんはこの後、どこに行くと思いますか。</p> <p>絵を見て問題に答えましょう。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>3 だれがなにをしている絵ですか。 □ が □</p>	<p>正答 (左より) 3・1・2</p> <p>誤答 (左より) 3・2・1 無回答</p> <p>正答 しょうがっこう、がっこう</p> <p>誤答 がこっう おうちにかえる 無回答</p> <p>正答 「おんなのこ が プレゼント をあげている。」「おかあさん が おはなをもらっている。」 等、意味の通る文が書ける。</p> <p>誤答 意味は通るが「を」を「お」 にしている、「もらっている」 が、「もらっている」になってい る。 「おんなのこ が はなをもら う」「おかあさん が プレゼン ト」等、主語と述語の不一致。 無回答 (片方のみ空欄含む)</p>	<p>22</p> <p>4 5</p> <p>26</p> <p>3 1 1</p> <p>16</p> <p>6</p> <p>4</p> <p>5</p>

4 2人がどんなことを言っているか、考えて書いてみましょう。	正答	「プレゼントだよ」「ありがとう」や「いつもありがとう」「たいせつにするね」等、意味の通る会話が書ける。	16
	誤答	意味は通るが「をかあさん」や「をはな」になっている。	4
		意味の通る会話になっていない。	4
		無回答（片方のみ空欄含む）	7

実態調査より、本学級の児童の約71%が国語科の学習を「好き」または、「どちらかといえば好き」と回答しているが、1年生の実態としては低い割合であり、さらには「嫌い」と感じている児童が約23%もいるなど、あまり国語科の学習に好意的ではないことがわかった。理由については「面白いから・楽しいから」というものが多いが、「字を書くのが好きだから」「字が上手くなるから」という好意的な意見と、「字をたくさん書くから」「字が上手に書けないから」という否定的な意見があり、「書くこと」への意識について大きな差があることがわかる。

国語科の学習で好きなことを答える問いでは「ひらがな・かたかな・漢字」が最も多く、次いで「読書」「音読」が多い。年度初めから継続して行っている内容について好意的な意見があることがわかる。ところが、「発表」を好きな児童は約29%しかおらず、全体に向けて意見を伝えることを好んでいる児童は少ないことがわかった。本単元と同じ物語文の学習は約39%の児童しか好きと答えた児童がおらず、あまり興味をもっていないことがわかる。わからない問題があった場合にどうするかと問うと、「自分で頑張る」と答える児童が最も多く、次いで「お家で聞く」という回答が多かった。これまで友達と考えを話し合う活動が少なかったため、「友達に聞く」の割合が低くなっているように感じている。最後に国語科の学習がどんなことに役立つかを問うと、「難しい字を読む」といった回答が多かった。漢字の学習が進んでいることからそれが分かりやすい「役に立つ」と感じられるのだろう。他には「大人になったら」や無回答も多く、国語科が自分の生活とどのように結びついているのか、児童の中に明確なイメージができていないということがわかった。

事前調査では、問題1の簡単な文章を読んで、絵を時系列順に答えることは約71%の児童が正答できた。しかし、残りの約29%は順に数字を書いただけであったり、無回答であったりしたことから、文章を読んで順番を読み取ることができていないということがわかる。そして問題2は文章や絵にランドセルが出てくることもあり、正答した児童は約84%、促音の書き間違いも含めれば約94%の児童が「たろうくんはこのあとがっこうに行く」という想像ができていたことがわかった。このことから、時系列を捉えたり、文章からその後を想像したりすることは多くの児童ができていたことがわかる。

問題3と4は絵を見て「だれが」「なにをしている」のかを捉え、それをもとに会話を想像する問題である。この問題では約52%の児童が絵の内容を捉え、意味の通る会話を想像し書き表すことができた。また、助詞「を」と「お」の使い分けができていないが、そこが直れば意味の通る会話文になる児童も数人いる。意味の通らない会話文になっていたり、無回答だったりする児童が問3では約29%、問4では約35%だった。調査後、無回答だった児童に何も思いつかなかったのか尋ねるところ、「何と答えたらいいのかわからなかった」という理由が多かった。文章中から答えを見付けるなど、答えがはっきりしている問題は簡単に答える児童も、自分で想像するような問題や考えを書き出すことを「難しい」と感じる人が多いことがわかった。

### (3) 指導観

#### <仮説1>

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。

調査によると、本学級の児童は文章中に答えがあつたり、実体験と結びついたりして答えがわかりやすい問題を「簡単」だと感じるが、自分で想像したり、考えを書いたりすることがはっきりした答えに繋がりにくいことから「難しい」と感じ、苦手意識をもちやすいことがわかった。また、事前調査でどの問いにも無回答があるなど、「わからない」ことに対して粘り強く取り組まずに、あきらめてしまうことが多いこともわかる。これら苦手意識を軽減し、課題を「わかる、楽しい」と感じるようなものにしていかなければ、児童の主体的な姿を引き出すことは難しい。特にこの単元では写真から登場人物の行動を捉え、台詞を想像する活動が中心になるため、児童を教材に引き込み「もっとやりたい」と感じるようにしていく必要がある。

そこで、以下の点に重点を置いて指導にあたる。

#### ①児童を教材文に引き込む工夫

登場人物になりきって言葉や心情を想像するためには、児童が物語にのめりこむようにして読み取りや想像する活動を行う姿が理想的である。その姿に近づけるための手立てとして、教科書の挿絵を拡大して掲示したり、紙芝居のように提示して音読したりすることで児童の興味を惹くことができる。また、読み取りを進める際には、白くまの親子が旅をしていく様子をパネルシアターのように提示し、どこまで旅が進んでいるのか、どのあたりで吹雪や雄ぐまといった旅の障害が出てくるのかななどを視覚的に表していく。このようにすることで、児童が物語の中に浸りやすくなり、「次はどうなるの」「きっとこうするよ」とより主体的に内容を読み取ろうとする姿が見られると考える。

#### ②「変身読み」の意識付け

白くまになったつもりで言葉を考えるためには、登場人物がどのような気持ちで行動しているのかを考える必要がある。そのために、「変身読み」と名付け、抑揚を付けたり、強弱を変えたりして白くまの兄弟や母ぐまになったつもりで読むことができるようにしていく。このとき、写真を提示して、白くまたちの状況を確認し、場面設定をはっきりさせる必要がある。また、白くまのお面を用意し、なりきる意識を高めることで、より白くまらしく読もうとすることができる。それ以外にも兄弟や母ぐまに名前を付け、単なる物語の登場人物ではなく、「自分たちが変身する相手」として強く認識できるようにしていく。こうすることで、児童は「白くまに変身して読む」という目的をもって音読に取り組み、上手な読み方を考えていく中で言葉や心情を想像しやすくなると考える。

#### ③「きょうのできた」の振り返り

児童の「もっとやりたい」という感情を引き出すには、自分がどこまでできたのかを自覚できるような手立てが必要である。そのためには、単元計画を作成して時間ごとのめあてを確認し、それに対してどこまでできたのかを意識的に振り返る、という活動を積み重ねていくことで、児童は今の自分がどこまでできたかを感じることができるようになると考える。一年生の発達段階を考えると、言葉で振り返ったり、書き表したりすることができる児童もいるが、全体で統一して行うことは、本学級の児童にはまだ早いと感じている。そのため、本単元では本時のめあてに対して自分がどれくらいできたのかを「◎・○・△」を用いて表し、そのうえで理由もかける児童は書き加えるようにする。このようにすることで、児童一人一人がその時間の学習に対して振り返り、「つぎは◎にしよう」「言葉も書けるにしよう」と次時への意欲にもつなげることができると考える。

## <仮説2>

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。

調査によると、本学級の児童は「書く」活動への苦手意識を強くもっている児童がいることがわかる。また、発表や作文といった活動を楽しんでいる児童も少ない。本単元では写真で言葉を想像する活動から、簡単なお話を作る活動へとつなげていく。そのためには、全体で写真からわかることを共有したり、理由を付け加えて言葉を考えたりと、学級全体で基本的なところをおさえながら、一人一人の意見を大切にする。全員が自分の意見を「これでいいんだ」と感じることができるようになっていきたい。「これでいいんだ」を繰り返していくことにより、「こうしたらどうだろう」「友達はどうしているから変えてみよう」など、自分の考えを深めようとする思考につながると考えている。

そこで、以下の点に重点を置いて指導にあたる。

### ①情報をまとめるワークシートの活用

本学級の児童は、ノートへ書く内容が増えると書ききれなかったり、次の活動に遅れてしまったりする児童がいる。全員がそろって考えを共有し、活動を進めていくには書く内容を精選し、必要な情報だけを簡潔にまとめていく必要がある。そのため、写真に書かれていることや「いつ」や「だれ」といった情報をまとめるためのワークシートを用い、必要な部分のみ抜き出しながらまとめることができるようにしていく。そして写真と吹き出しを大きく載せることで、中心の活動が言葉を想像することだとわかりやすくする。また、ワークシートを台紙に重ねて貼り付けて保管することで、これまでの学習内容を振り返りながら課題に取り組むことができると考える。こうすることで、児童は言葉を想像する活動に集中しやすくなるとともに、必要な情報を振り返りながら自分の考えをもつことができるようになると思う。

### ②動作化、役割演技を交えた発表

『うみへのながいたび』は写真と文章とを見比べながら読み進めていくため、文章中の表現が実際に描かれている写真を紹介することで動きを視覚的に理解することができる。しかし、「立ちふさがる」や「たじたじとなる」など、静止した写真では伝わりづらい表現も出てくる。また、文章や写真などだけでは表現を理解しきれない児童も含めて全体で共有するには、音読しながら動作を加えたり、実際に母ぐまや子ぐまの役割を決めて言葉を発表したりすることが必要である。このようにすることで、児童は登場人物の行動をより深く理解し、その心情や言葉を想像しやすくなると考える。

### ③テンプレートを用いたお話作り

実態調査や事前調査からわかるように、本学級の児童が最も苦手意識を持っているのが「書く」活動である。しかし、助詞の「を」の使い方がまだ定着していないなど、「書く」ことを継続的に続けていく必要がある。そのためには、「自分の考えを書く」活動をしつつ、児童の苦手意識を軽減する手立てをとっていかなければならない。そこで、教科書の例文をもとにしたお話のテンプレートを作成し、自分が考えた言葉をかぎ（「 」）を使って書いたり、終わりの部分だけを考えたりして、お話作りをスムーズに取り組めるようにしていく。また、簡単だと感じている児童に対しては他の写真でお話作りを紹介するなど、自分の力に合わせて取り組めるような手立てをとる。こうすることで、児童は書くことへの苦手意識が薄まり、言語活動に取り組むことができるようになると思う。

### 3 単元の目標

- ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解し、正しく読んだり、文章を書いたりすることができる。 【知識及び技能】
- ・「読むこと」において、時間に着目して物語の流れを捉えたり、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像したりすることができる。
- ・「書くこと」において、写真を見て想像したことから書くことを見付け、伝えたいことを書き表すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・進んで写真と文章を比べて読み、登場人物の言葉を想像したり、お話を書こうとしたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】

### 4 指導と評価の計画 全16時間（本時12／16）

学習過程	時	主な学習内容と学習活動	評価規準・評価方法
第一次	1 2	○単元とびらを読み、学習の見通しをもつ。 ○教師の範読を聞き、初発の感想を書いて交流する。 ○単元のゴールで写真に言葉を付け、簡単なお話を書くことを知り、それに向けた学習計画を立てる。	【主体的】観察・発言・ノート 進んで文章と写真とを比べて読み、感じたことを発表したり、書き表したりしようとしている。
	3 4 5	○写真の枚数を確認し、時系列順に並べる。 ○写真と文章を比べながら、登場人物の行動をおさえる。	【知・技】ノート 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解し、正しく読んでいる。
	6 7 8	○それぞれの写真について、「だれがなにをしているのか」をおさえる。 ○物語の中で「とき」を表している部分に線を引き、白くまの親子がどのように旅をしていったのかを確認する。 ○白くまの兄弟がどのように成長していくのかがわかる部分に線を引き、写真と比べながら成長の様子を確認する。	【知・技】ワークシート 時間や場所を表す言葉を理解し、正しく読んだり、書いたりしている。 【思・判・表】ワークシート 「読むこと」において、写真と文章を比べて読みながら、時間に着目して物語の流れを捉えている。
	9 10 11	○写真の中からお気に入りの一枚を選び、白くまがどんな言葉を話しているのか想像して吹き出しを書く。 ○考えた言葉を友達と紹介し合い、感想を交流する。	【思・判・表】ワークシート 「読むこと」において、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像している。 【主体的】観察・ワークシート 進んで写真と文章を比べて読み、登場人物の言葉を想像しようとしている。

第 二 次	12 (本時) 13	<p>○チョウの幼虫の写真を見て、「いつ」「どこ」「だれ」など、わかることを書き出す。</p> <p>○チョウの幼虫が「なにをしている」のかを考え、それに合うような言葉を吹き出しに入れる。</p> <p>○チョウの幼虫になったつもりで吹き出しの言葉を発表し、交流する。</p> <p>○これまでの学習内容を振り返り、簡単なお話作りをすることを確認する。</p>	<p><b>【思・判・表】</b>ワークシート 「書くこと」において、写真を見て想像したことから書くことを見付け、伝えたいことを書き表している。</p> <p><b>【主体的】</b>観察・発言・ワークシート 写真から想像した言葉を、進んで伝え合おうとしている。</p>
	14 15	○想像したことをもとに、お話作りを行う。	<p><b>【知・技】</b>作品 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解し、正しく文章を書いている。</p> <p><b>【思・判・表】</b>作品 「書くこと」において、写真を見て想像したことから書くことを見付け、伝えたいことを書き表している。</p> <p><b>【主体的】</b>観察 進んで写真から想像したことを書き表そうとしている。</p>
	16	○書き上げたお話を読み合い、良かったところを相手に伝える。	<b>【主体的】</b> 観察・発言・ワークシート 進んで友達の作品の良いところを見つけ、伝えようとしている。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・「書くこと」において、写真を見て想像したことから書くことを見付け、伝えたいことを書き表すことができる。 **【思考力・判断力・表現力】**
- ・写真から想像した言葉を、進んで伝え合おうとしている。

**【主体的に学習に取り組む態度】**

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) と評価 (◎)	資料
7	1 掲示された写真を見て、わかることを発表する。 ・チョウの幼虫だよ。 ・葉っぱは食べ物なんだよ。	○教科書の写真を拡大したものを掲示し、どこを見ているのかを共有しながら進められるようにする。 ＜仮説1＞ ○写真を見てわかることだけではなく、チョウの幼虫について知っていることや、見て感じたことなど自由な発言になるよう発問する。	拡大写真
5	2 本時の学習問題を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 学ようちゅうはどんなことをはなしているのだろう。             </div>	○「きょうのできた」はチョウの幼虫の言葉を考えること、ということを確認する。 <b>＜仮説1＞</b>	
7	3 写真からわかることや、考えたことを整理する。 (いつ) ・明るいから朝だよ。 (どこ) ・木の上に住んでいるのかな。 (何をしている) ・葉っぱを食べているんだよ。	○「うみへのながいたび」でも使ったワークシートを活用し、必要な情報だけを簡潔に示す。 ＜仮説2＞ ○幼虫の「なにををする」に合わせて言葉が変わることを確認し、いくつか例となる言葉を板書する。 ◎写真を見て想像したことから書くことを見付け、伝えたいことを書き表すことができる。	ワークシート
15	4 チョウの幼虫がどんなことを話しているのかを想像して、吹き出しに書く。 (ご飯を食べている) ・「おいしいなあ。」「もっと食べたいなあ」って言っている。 (チョウになろうとしている) ・「きれいなチョウになるぞ」ってしゃべっていると思う。	<b>【思考力・判断力・表現力】</b> A: チョウの幼虫の言葉を想像し、いくつも吹き出しに書き表している。 B: チョウの幼虫の言葉を想像し、吹き出しに書き表している。 C: 吹き出しに書くことができない児童には、自分だったら何を言うかと声かけして支援する。	
6	5 考えた言葉を、友達と伝え合う。	○どんなふうを読んだらチョウの幼虫に変身できそうかを問いかけ、伝え方の視点を全体で共有する。	

5	6 「きょうのできた」を振り返り、次時は吹き出しにどんな言葉が考えられたかを全体で話し合うことを確認する。	<p>◎写真から想像した言葉を、進んで伝え合おうとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>A：友達に自分の考えた言葉を伝わりやすいように工夫しながら伝えようとしている。</p> <p>B：友達に自分の考えた言葉を伝えようとしている。</p> <p>C：伝えることができない児童には、考えた言葉をゆっくり読んでみよう、などの声かけをする。</p> <p>○「きょうのできた」の記号を書いた後、書ける人はできたこと、できなかったことを言葉で書くように声かけする。</p> <p style="text-align: right;">＜仮説1＞</p>
---	---	---

(3) 板書計画

はっぱをたべようとしている

「おいしそうだなあ。」

「たくさんたべよう。」

チョウになるうとしている

「きれいなチョウになりたいな。」

「はやくおとなになりたい。」

## 写 真

(学)

ようちゅうはどんなことをはなしているのだろう。

わかること

チョウ（ようちゅう）

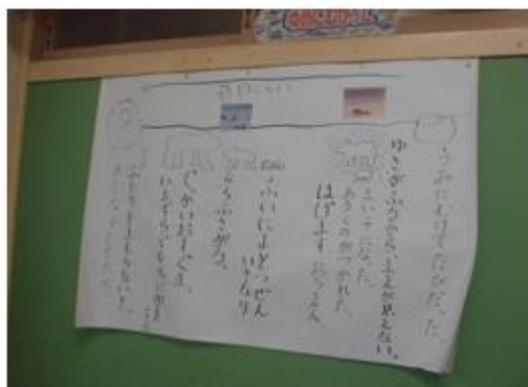
あさ ひる

はっぱのうえ

実践

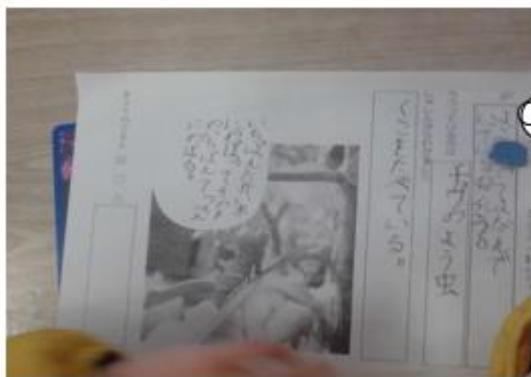
仮説 1

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。



物語が増えていくよう工夫した模造紙。+

学習が進むにつれて模造紙にも物語や登場人物の行動が追加できるようになっている。+



「いつ」「だれ」がわかりやすく記入できるようにしたワークシート。+

その時間の中心活動がわかりやすくなっている。+

仮説 2

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。



グループを作り、変身読みをする児童とそれを聞いて感じたことを答える児童とで役割を変えながら交流を行っている様子。+



グループの友達に考えたセリフを発表するとき、小さくても動きを付けるようにして発表している様子。+

## 成果と課題

### 仮説 1

- 挿絵を大きく掲示したり、白くまの親子が進んでいく様子を書き記したりすることで、次の段落ではどうなるのかを児童が考えながら読み進めることができた。
- 単元の始めは友達の言葉を写すだけだった児童も、変身読みや同じ形式のワークシートに毎時間取り組むことで、最後には全員が自分の言葉で写真にセリフを付けることができた。
- 白くまの親子が海に向けて旅をする様子を、子ぐまが生まれた場所から進んでいくようにしてまとめた。これにより、児童は段落ごとに何が起るのか注目しながら読み取ることができ、物語の流れを意識して旅の途中のできごとを振り返ることができた。
- 毎時間同じように活動に取り組み、振り返りを行うことで、単元の終盤にはほとんどの児童が◎に印を付けることができるようになった。全員が言葉で振り返ることはできなかったが、見通しをもって取り組むことで自信をもって活動に取り組むことができた。
- 「変身」するのであれば、お面や小道具など白くまになりきるための工夫があれば表現をもっと深めることができたように思う。

### 仮説 2

- 毎時間同じ形式のワークシートを用いて学習を行うことで、前時の写真と見比べながら登場人物の気持ちを想像して書き表すことができた。
- グループを作り、変身読みをする児童とそれを聞いて感じたことを答える児童とで役割を変えながら交流を行った。母ぐまのセリフを読むときと子ぐまのセリフを読むときで調子を変えるなど「変身」を意識して考えた気持ちを発表することができた。
- 挿絵の写真に写っているもの、そこからわかることを全体で共有することで、段落ごとの状況を児童が理解しやすくなった。そのため、セリフを考える活動に見通しをもって取り組むことができ、母ぐまや子ぐまの気持ちに寄り添ってセリフを考えることができた。
- グループの友達に考えたセリフを発表するとき、小さくても動きを付けるようにして発表した。変身読みの意識と合わせることで、見ている児童にとっては、相手がどのような気持ちで話しているのか、何を伝えようとしているのか、わかりやすかったという感想が多かった。
- どのような場面であるかを限定することは、支援が必要な児童にとっては書きやすいものになったが、多くの児童の想像の幅を狭めてしまった。
- グループで発表して感想を伝えるだけで終わってしまうことが多かった。相手に伝える際の視点や交流の進め方など、話し方の指導が必要だった。

令和元年11月22日(金)

指導者

展開場所 5年3組 教室

1 単元名 本のすいせんをしよう ～雪わたり/「図書すいせん会」を開こう～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領「思考力・判断力・表現力等」の中の「C読むこと」の以下の内容に基づいて設定したものである。

目標 (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

内容 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

イ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

児童はこれまでに第4学年の「ごんぎつね」では、登場人物の行動や気持ちを想像しながら読み、自分の考えた副題をつける学習をしてきた。第5学年の「いつか、大切なところ」の学習では、登場人物の心情の移り変わりを想像して読んだり、「大造じいさんとがん」の学習では、登場人物の心情の変化を読み、「山場」を考える学習をしたりしてきた。これらの学習を受けて、本単元は、表現の工夫や登場人物の性格を考えて読んだり、本の推薦の仕方を工夫して、「図書すいせん会」を開いたりする学習をする。そして、第6学年の「きつねの窓」の学習での、登場人物の心情の変化を考えて読んだり、卒業を前に自分と本のつながりを見つめ直し、自分にとっての大切な一冊を紹介したりする学習へつなげていく。

本単元では、単元を貫く言語活動として、「宮沢賢治の世界観が伝わるように本をすいせんしよう」と設定する。「雪わたり」を学習した後には、ポップや帯紙を用いて宮沢賢治の他の作品を推薦する学習を行う。そこで、学級で同じ本を選んだ人同士の出店を開いて紹介し合い、その中で、選ばれた優れたポップや帯紙を図書室に掲示するという目的を設定する。どのような工夫をしたら手に取ってもらえるか、読んでみたいと思ってもらえるかを考え、宮沢賢治についてよく理解し、ポップや帯紙を作るには絵や形、本の内容、推薦の言葉などを工夫したりする必要性を実感させる。そして、宮沢賢治の独特の世界観に親しみ、優れた表現や比喻などを用いたオリジナルのポップや帯紙を作成することができるようにしていく。

(2) 児童の実態 (26名)

本単元を実施するにあたり、以下の実態調査を行った。

〈実態調査〉

アンケートの内容	児童の回答	
	回答	人数(人)
1 国語科の学習は好きですか。	・好き	4
	・どちらかという人喜欢	11
	・どちらかという人嫌い	10
	・嫌い	1
2 国語科の学習で好きなことは何ですか。 (複数回答)	・漢字	15
	・物語を読むこと	12
	・文を書くこと	8
	・聞くこと	6
	・音読すること	5
	・発表すること	1
3 物語を読むことは好きですか。	・好き	10
	・どちらかという人喜欢	12
	・どちらかという人嫌い	4
	・嫌い	0
4 登場人物の心情を読み取ったり、想像したりすることは好きですか。	・好き	2
	・どちらかという人喜欢	14
	・どちらかという人嫌い	7
	・嫌い	3
5 自分の考えを発表することは好きですか。	・好き	4
	・どちらかという人喜欢	6
	・どちらかという人嫌い	9
	・嫌い	7
6 グループでの話し合いは好きですか。	・好き	12
	・どちらかという人喜欢	9
	・どちらかという人嫌い	3
	・嫌い	2

〈事前調査〉

調査内容	児童の解答	
	解答	人数(人)
1 読書は好きですか。	・好き	15
	・どちらかという人喜欢	7
	・どちらかというと嫌い	3
	・嫌い	1
2 友達におすすめしたい本はありますか。	・ある	2
	・ない	24
3 本のポップや帯紙がどのようなものか知っていますか。	・知っている	2
	・知らない	24
4 宮沢賢治さんを知っていますか。	・知っている	4
	・知らない	22
5 宮沢賢治さんのお話を読んだことがありますか。	・ある	1
	・ない	25
6 この中で、知っている、または読んだことがあるお話はありますか。 (複数回答)	・銀河鉄道の夜	16
	・注文の多い料理店	10
	・雨ニモマケズ	8
	・風の又三郎	5
	・猫の事務所	5
	・セロ弾きのゴーシュ	2
	・おきなぐさ	0

実態調査から、本学級の児童は、学級全体の58%の児童しか国語科の学習を「好き」、「どちらかという人喜欢」と答えておらず、国語科の学習に対してあまり意欲的ではないことがわかる。国語科の学習活動に関する問いでは、漢字の学習や物語を読む学習に対しては好意的に取り組むことができている。特に、物語を読むことに関しては、84%の児童が「好き」、「どちらかという人喜欢」と回答している。しかし、登場人物の心情を読み取ったり、想像したりすることが好きな児童は、62%と減少する。その理由としては、文章を読み取ることが苦手であり、心情を想像することに対するの苦手意識が高いためであると考えられる。

自分の意見を発表することに関しては、60%の児童が「嫌い」、「どちらかというと嫌い」と答えている。その理由は、大勢の前で話すのが苦手であったり、緊張してしまったりという理由が多い。しかし、グループでの話し合いは81%の児童が好意的である。このことから、人とコミュニケーションをとったり、関わったりすることは嫌いではないが、大勢の前では話したくないという内向的な児童が多いことが伺える。

事前調査から、読書が好きな児童が85%と多いことがわかった。毎朝の読書タイムでも、10分という短い時間ではあるが、一人一人が読書を楽しんでいる様子が見受けられる。しかし、友達におすすめしたい本があるかという問いには、8%の児童のみがあると回答した。理由を聞くと、「友達におすすめしようと思ったことがなかった。」「友達の好みがわからない」等という理由が挙げられた。このことから、「読書は一人でするもの」と考え、相手意識をもっていないことがわかる。

本のポップ、帯紙と聞いて、そのものをイメージすることができた児童は8%であった。このことから、児童が本を選ぶ際にあまりポップや帯紙などを見ていないことがわかる。そのため、ポップや帯紙の実物を見せ、イメージをもたせる必要があると考える。

宮沢賢治の名前を知っている児童は16%と少なかったが、「作品名は聞いたことがある」、「図書館で見たことがある」という意見が出た。このことから、作品を読んだことはないが、作品名を知っている児童が多く、本単元の学習は児童にとって全く初めて出会う物語ではないことがわかった。

### (3) 指導観

#### <仮説1>

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。

実態調査の結果から、本学級の児童は、気持ちを読み取ったり、想像したりすることに対して苦手意識が強いが、本を読むことは好意的に行うということがわかった。そこで、登場人物の心情だけに迫るのではなく、物語全体の特徴や表現方法等に焦点を当てて読んでいき、物語を読む楽しさを味わってもらいたい。

そこで、以下の点に重点を置いて指導していく。

#### ① 単元のゴールの設定

本単元のゴールは、宮沢賢治の本のポップや帯紙を作り、推薦し合うことである。推薦会では出店方式で発表を行い、その後自分が読みたいと思ったポップや帯紙を選ぶ。友達から選ばれた優れたポップや帯紙は図書館に掲示し、実住小の児童に紹介する。ポップや帯紙を置くことでどんな効果があるか、図書館に来た人に手に取ってもらうためにはどんなポップや帯紙がよいかを考える。そうすることで、児童がどのようなポップや帯紙を作ればよいかを考え、物語の内容や表現方法などにも注目して読む必要があることに気付くことができると考える。また、心情を読み取ることが苦手な児童も、表現方法や比喻などに注目して読んでいくことで、苦手意識を軽減できるようにする。

#### ② 宮沢賢治の世界観に浸るための環境整備

実態調査から、宮沢賢治についてあまり知らない児童が多いことがわかった。そこで、『雪わたり』だけでなく、色々な宮沢賢治の本を読むことができるよう、宮沢賢治の本を教室内に置き、並行読書をしていく。そうすることで、宮沢賢治ならではの表現方法や世界観に気付きやすくなると考える。また、教師の見本のポップや帯紙を書店のように置いたり、陳列を工夫したりすることで、単元のゴールをイメージしやすくし、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

### ③ 毎時間の感想を次時に繋げる

毎時間授業の振り返りを書き、その感想や疑問を次時の最初に紹介し、それを踏まえて学習問題を立てていく。児童自身の疑問や感想を使って授業を組み立てていくことで、自分が授業に参加しているという気持ちを高め、意欲的に学習に取り組むことができるようにしていく。

#### <仮説2>

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。

実態調査の結果から、本学級の児童は、人前で話すことが好きではない児童が多いが、グループでの話し合い活動は好きであることがわかった。全体での話し合いだけでなく、考えの表し方を工夫し、誰もが自分の考えや思いを伝えることができるようにしたい。

そこで、以下の点に重点を置いて指導をしていく。

#### ① グループでの話し合い活動

実態調査から、少人数での話し合い活動が好きな児童が多いことがわかる。また、全体の前で発表することが好きでない児童が多く、その理由として「恥ずかしい」、「緊張する」という抵抗感が挙げられた。そのことから、「雪わたり」の読み取りをする際や授業の振り返りをする場面でグループで交流する時間を多く設けることで、自分の意見に自信をもち、発表しやすくなったり、人前で話すことへの緊張感を軽減したりすることができるようにする。

#### ② 付箋を用いた交流

本学級には、場面緘黙のため自分の考えを口頭では表現することが困難な児童がいる。その他にも、人前で話すことが苦手な児童も多い。そこで、心情を読み取ったり感想を交流したりする際には、口頭と付箋を用いて交流することで、自分の意見を相手に伝えることができるようにする。また、付箋で交流することで、ノートなどに残したり、見直したりすることができ、学びを深めることができると思う。

#### ③ 出店方式による発表

同じ本を選んだ者同士のグループを組むことで、ポップや帯紙を作る際には優れた表現や比喻、反復などポップや帯紙の工夫に気付きやすくなり、感想やアドバイスを送りやすくなると思う。また、同じ本を選んでいても一人一人面白いと思った観点やポップの形、表現の仕方が違うため、出店方式で推薦会を行うことで、多様な表現に触れることができるようにする。

### 3 単元の目標

- ・ 比喩や反復など表現の工夫に気付いたり、語感や言葉の使い方に気をつけて、読んだり、書いたりすることができる。 **【知識及び技能】**
- ・ 物語を推薦するために、登場人物の行動や会話、場面などについての優れた叙述に注目して、自分の考えをまとめることができる。
- ・ 印象に残った本のよさを多くの人に伝えるための文章を書くことができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- ・ 宮沢賢治の様々な作品に触れて自分の考え方を広げたり、深めたりし、読書に親しもうとしている。 **【学びに向かう力、人間性等】**

### 4 指導と評価の計画 全11時間（本時8／11）

学習過程	時配	主な学習活動と学習内容	評価規準・評価方法
第一次	1	○「雪わたり」を読み、あらすじを捉える。 ○宮沢賢治の作品のポップや帯紙を作ることを確認し、ポップに必要な情報は何か考える。	<b>【主体的】</b> ノート これからの学習に関心を持ち、学習の見通しをもとうとしている。
第二次	2	○登場人物の性格を、会話や行動から読み取り、心情の変化を考える。	<b>【思・判・表】</b> 発表・ノート 登場人物の性格について考え、まとめることができる。
	3 4	○表現の工夫について考え、読み取る。	<b>【思・判・表】</b> 発表・ノート 表現の工夫について、2つの観点で読み取ることができる。
	5	○「雪わたり」の面白さを考え、発表し合う。 ○他の宮沢賢治の作品について、面白いところや表現の工夫を見つける。	<b>【知・能】</b> 発表・ノート 「雪わたり」の面白さについて考え、まとめることができる。
	6 7	○ポップや帯紙に載せる情報を確認する。 ○作品名・作者名・キャッチコピー・紹介文などを入れながら、「雪わたり」のポップや帯紙を書く。	<b>【思・判・表】</b> ポップや帯紙 自分の感じた「雪わたり」の魅力を入れながら、ポップや帯紙を作ることができる。

第 三 次	8 (本時)	○「図書すいせん会」の目的や方法を確認して推薦する理由を考えながら本を選び、ポップや帯紙の下書きを作る	【思・判・表】ワークシート 物語の中から優れた表現や面白さが伝わる部分を読み取り、ポップの下書きを書くことができる。  【主体的】観察・付箋 良いポップや帯紙を書くためのポイントを意識して友達のポップを読み、感想やアドバイスを書こうとしている。
	9 10	○人をひきつけるような文章、レイアウトを考えながらポップや帯紙を完成させる。	【思・判・表】ポップや帯紙 人をひきつけるような工夫をしながらポップや帯紙を作ることができる。
	11	○作ったポップを出店方式で推薦し合い、宮沢賢治の作品の面白さや特徴を見つけたり、ポップや帯紙に入れる効果的な言葉の使い方に気づいたりする。	【思・判・表】ワークシート・発表 ポップを読み合い、宮沢賢治作品の魅力や推薦する際の言葉や文章の工夫に気づき、自分の考えをまとめることができる。

## 5 本時の指導

### (1) 目標

- ・物語の中から優れた表現や面白さが伝わる部分を読み取り、ポップの下書きを書くことができる。 **【思考力・判断力・表現力】**
- ・良いポップを書くためのポイントを意識して、友達のパップや帯紙を読み、感想やアドバイスを書こうとしている。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

### (2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) と評価 (◎)	資料
2	1 前時の学習をふり返し、本時の学習の見通しをもつ。	○児童の前時の感想や疑問を紹介し、本時の学習のめあてをつかむことができるようにする。 <b>【仮説1】</b> ○「雪わたり」で作ったポップや「雪わたり」で読み取った時の掲示物を用意しておき、内容を振り返ることができるようにしておく。	指導計画 ポップ
3	2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">宮沢賢治のみ力が伝わるポップや帯紙にするには、どうすればよいだろうか。</div>		
20	3 一人一人が自分の選んだ宮沢賢治作品のポップの下書きを書く。 <ポップや帯紙を書く時のポイント> ・作品名 ・作者名 ・わかりやすいキャッチコピー ・セリフを入れる ・お話の中の言葉を使う ・感想を入れる	○ポップや帯紙の手本を示し、どのようなポップや帯紙を作ればいいかを確認する。 ○作品の中からポップに使いたい表現や内容をノートに書き出す。それを基にして、ポップの下書きを書く。 ◎物語の中から優れた表現や面白さが伝わる部分を読み取り、ポップの下書きを書くことができる。 <b>【思考力・判断力・表現力】</b> (ワークシート) A優れた表現や面白さが伝わる部分の他に自分の思いや感想を用いて、ポップの下書きを書くことができる。 B優れた表現や面白さが伝わる部分を用いて、ポップの下書きを書くことができる。 Cポップの下書きを書くことができない児童には、ポップの例を見せ、どのようなことを書いたらよいか分かるよ	ワークシート

<p>1 5</p>	<p>4 下書きをグループで読み合い、感想やアドバイスを伝え合う。</p> <p><b>【予想される児童の反応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポップを見て、読んでみたいと思ったよ。</li> <li>・もっとお話中の言葉を使ったら更に魅力が伝わると思うよ。</li> </ul>	<p>うにする。</p> <p>○前時で作った「雪わたり」のポップを振り返り交流のポイントを確認する。</p> <p>○同じ本を選んだ者同士のグループを組み、優れた表現や比喻や反復などのポップの工夫に気づき、交流しやすいようにする。 <b>【仮説2】</b></p> <p>○少人数で交流することで、話すことが苦手な児童も交流しやすいようにする。 <b>【仮説1】</b></p> <p>○感想やアドバイスは付箋に書いて交流することで、後で付箋を見ながら書き直すことができるようにする。 <b>【仮説2】</b></p> <p>◎良いポップを書くためのポイントを意識して友達のポップや帯紙を読み、感想やアドバイスを書こうとしている。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> (付箋・観察)</p> <p>A友達のポップの良いところを見つけるだけでなく、より良くするためのアドバイスを送ろうとしている。</p> <p>B優れた表現や比喻などポップの工夫に気づき、感想を伝えようとしている。</p> <p>C感想やアドバイスを送ることができない児童には、ポップの良い例と悪い例を見せ、交流するポイントがわかるようにする。</p>	<p>ワークシート付箋</p>
<p>5</p>	<p>5 本時の振り返りと、次時の予告をする。</p> <p><b>【予想される児童の反応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなポップを作れば良いか見通しをもつことができた。</li> <li>・友達のポップを見て、自分のポップにも生かそうと思った。</li> <li>・次のポップ作り本番が楽しみ。</li> </ul>	<p>○本時の振り返りを書き、疑問や課題を次時に繋げることができるようにする。 <b>【仮説1】</b></p> <p>○次の時間の学習の予告をすることで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。</p>	

実践

仮説1

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。



相手に手に取ってもらうためには、どんなポップや帯紙がよいかを考えるために本の紹介コーナーを設置。+



宮沢賢治の本を教室内に置き、並行読書を実施。+

仮説2

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。



「雪わたり」の読み取りをする際や、授業の振り返りをする場面で、グループで交流する様子。+



心情を読み取ったり感想を交流したりする際に、口頭と付箋を用い交流をした様子。+

## 成果と課題

### 仮説1

- ポップや帯紙の効果を考えることで、作成する際に物語の内容に注目することができた。
- 教室に用意した宮沢賢治の本に見本のポップや帯紙を置くことで、見通しを持って学習に取り組むことができた。
- 並行読書では、様々な本に興味を持って読書をしている児童が多かった。そのため、宮沢賢治ならではの表現方法まで考えることができなかった。

### 仮説2

- グループで交流する時間を多くとったため、自分の意見に自信をもって発表できる児童が増えた。
- 感想やアドバイスを付箋に書いて交流することで、改善点がはっきりとわかりやすくなり、その後意欲的に直すことができた。
- 付箋を書くことと口頭で伝えることで感想を伝えやすくなったが、書くことが苦手な児童は時間がかかってしまい、口頭で交流するまでいくのが難しかった。

## 第6学年2組 国語科学習指導案

令和2年10月21日（水）

指導者

展開場所 6年2組教室

- 1 単元名 『ぼくの世界、君の世界』— “自分の心の世界” について考え、文章で表現しよう  
（主な学習材：『ぼくの世界、君の世界』 西研著 教育出版）

### 2 単元について

#### （1）単元観

本単元は、学習指導要領「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の以下の内容に基づいて設定したものである。

知識及び技能（2）ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

思考力、判断力、表現力等 A（1）オ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

B（1）ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

C（1）ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

C（1）オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

本単元、『ぼくの世界、君の世界』には、「自分だけの心の世界がある」という発見や、「だからこそ、人は伝え合う努力をする」という考えに至る過程で、筆者が実際に体験したり、想起したりした様々な事例が紹介されている。ここでは、事例を基にした筆者の論理展開を追いながら、文章の大事な点をおさえ、要旨を捉える。また、事例を自らの知識や体験と照応し、「心の世界」という抽象的な世界に目を向け、自身と向き合い、考えたことを文章にまとめることを目的とした教材である。

教材の特徴として、筆者が小学生の時に感じた疑問「世界は自分だけにそう見えているのではないか」を、思索を重ねて検討し、「自分だけの心の世界がある」という発見や「だからこそ、人は心で伝え合う努力をする」という考えに至る過程を描く初歩的な論説文である。まず、この文章が問題を示し、それを解明する形で進んでいる文章だということをつかんでおきたい。次に、この文章は、「思索によって思索を深める」という特徴がある。結論を支えるのは、これまでの説明文のように、実験のデータのような客観的な「事実」ではない。「あまみ」や「痛み」の事例など、ある出来事を仮定し、様々な可能性を考えてみた結果である。そのため文章表現も仮定や検討を表す表現が使われている。こうした「心の世界」という抽象的なことを説明する文の特徴をつかむことができる教材でもある。また、この教材によって、児童は筆者の問いかけに応じながら、「自分だったら」と、自分の経験と結びつけて読むこともできるだろう。

児童はこれまでに『まんがの方法（5年）』、『雪は新しいエネルギー（6年）』で、例として挙げられた絵と文とを一つ一つ対応させて読んだり、説明の仕方に着目したりして、様々な観点から説明文を読む学習を積み重ねてきている。また、読み取りを行っていくときの視点として、「筆者の主張」や、「読者に伝えるための表現や構成の工夫」などを意識して読むことを学んできている。

本単元の学習の流れとして、『ぼくの世界、君の世界』を読み進め、自分の考えをまとめる前には互いの感じ方の違いの例として、『あなたはどうか感じる？』を学習していく。登場人物の会話から、自分たちにもある感じ方や考え方の違いに目を向けさせ、「心の世界」を考えるきっかけにするのが

ここでのねらいである。そして、「『うれしき』って何？－哲学対話をしよう」では、自分の経験を想起し、それを言葉にして聴き合い、お互いの感じ方の違いに気付くことで、自らの考えを振り返り、新たにすることをねらいとした活動である。

(2) 児童の実態 (28名)

本単元を実施するにあたり、以下の調査を行った。

〈実態調査〉

アンケートの内容	児童の回答	
	回答	人数 (人)
1 国語科の学習は好きですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好き 5</li> <li>・どちらかという好き 16</li> <li>・どちらかという嫌い 7</li> <li>・嫌い 0</li> </ul>	
2 国語科の学習で好きなことは何ですか。 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語や説明文を読むこと 18</li> <li>・漢字 13</li> <li>・音読すること 11</li> <li>・文を書くこと 8</li> <li>・話すこと 7</li> <li>・聞くこと 6</li> <li>・まとめたことを発表すること 6</li> <li>・言葉の学習 1</li> </ul>	
3 どちらの文章の学習が好きですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文 26</li> <li>・説明文 2</li> </ul>	
4 説明文を読むときには、そのようなことに気を付けて読んでいますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要旨に気を付けながら 6</li> <li>・文章の特徴を考えながら 4</li> <li>・資料に注目して 2</li> <li>・実験の内容と結果に気を付けて 1</li> <li>・問いかけの文に気を付けて 1</li> <li>・気持ちを考えて 2</li> </ul>	

〈事前調査〉

アンケートの内容	児童の回答	
	回答	人数 (人)
1 自分が感じていることと、まわりが感じていることが違うと思ったことがありますか。 (どのようなときに？自由回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある 18</li> <li>・ない 10</li> </ul> <p>ある…グループで話し合うとき 勉強が得意な人の考えを聞いたとき</p> <p>き 同じ絵を見た時の感想の違い 味覚や形</p>	
2 自分に見えているものが、友だちには違って見えているのかもしれないと考えたことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある 12</li> <li>・ない 16</li> </ul> <p>ある…絵だけの本を読んだとき</p>	

(なぜそう考えた？自由回答)	同じ形を違う捉え方をした 雰囲気 話し合いをしている中で	
3 まわりは自分のことをわかってくれないと考えたことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある</li> <li>・ない</li> <li>ある…話がかみ合わないから 雰囲気から感じた 自分の意見に納得してもらえなかったから</li> <li>ない…あまり対立しないから 相手が気を使っているのだと思う 一緒にいる期間が長いから</li> </ul>	9 19
4 問題を投げかけているのは、どの段落ですか。	正答 誤答 (4) 段落、無回答	20 8
また、そこで投げかけている問題はどんなことですか。	正答 誤答 無回答	22 6
5 6段落で筆者が言いたいことを3つ、それぞれ「感情」という言葉を使って書きましょう。	正答 誤答 3つ抜き出せていない	19 9
6 この文章を読んで、自分が考えたことを書きましょう。	正答 誤答 無回答、または考えが書けていない	24 4

実態調査から本学級の児童は、約75%が国語科の授業を「好き」または「どちらかといえば好き」と回答していることがわかった。理由は様々だが、一番多かった理由は、「物語文を読み、登場人物の気持ちを考えるのが好き」であった。また、「漢字の学習」が好きな児童も多かったが、これらの回答や普段の学習時の様子から、わかりやすく、答えがはっきりとしている学習内容を好む児童が多いことがわかる。「どちらかといえば嫌い」と答えた児童の理由としては、「文章を読むのが得意でないから」というものが一番多かった。これらの児童は、事前調査1の回答でも無回答であったり、「登場人物の気持ちを考えて読む」等、説明文の読み方を意識せずに読んでいたりすることがわかった。また、「説明文と物語文、どちらの種類の文章の学習が好きか」という問いには、約93%の児童が物語文と答えた。アンケートや普段の学習時の様子から、「登場人物の心情を想像するのが好き」「いろいろな物語の世界を楽しむことができる」との理由で物語文の学習が好きな児童が多いことがわかる。

事前調査では、1～3の回答から、本単元で筆者が投げかけている内容について児童がどのように考えているのかがわかった。読み込んだうえでの回答ではないので、中には質問の意図とは違う回答や、どう回答したらよいかわからず回答している児童もいると思われる。調査1については、話し合いの場を挙げ、自分と周りが感じていることが違うという体験をしたことがあるという回答が多かった。調査2については、半分以下の児童が体験したことがあると回答した。しかし、自分の体験に結び付けて理由を述べている児童は少なかった。調査3については、「ない」と回答した児童の方が多かった。この問いでも、自分の体験と結びつけて具体的に説明できた児童は少なかった。

4～6の解答からは、児童に十分身に付いていない力があるとわかった。筆者から投げかけられて

いる問いについては、答えの文が「なぜ～あるのでしょうか」という形になっており、探しやすい問題であると思われたが、誤答、無解答の児童も多かった。5については、「感情」というキーワードに注目して答えようとしているが、筆者の考えが含まれている文章ではなく、「感情」というキーワードが入っている他の文章に注目して解答している児童も多かった。6については、文章の内容を読み取り、自分なりの考えをもっているものの、簡単な感想のような内容になってしまう児童が多かった。

### (3) 指導観

#### <仮説1>

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。

調査によると、本学級の児童は「わかりやすい、答えがはっきりとでる」学習内容に対して意欲的であることがわかった。また、文章の種類によって読み取るときの視点があり、そこに注意して読みとろうとしている児童が少ないということもわかった。この単元では、筆者の主張する「心の世界」という抽象的なことを説明する文章の特徴をしっかりと読み取らせていきたい。

そこで、以下の点に重点を置いて指導にあたる。

#### ①学習計画表の活用

学習計画表を活用し、児童と一緒に学習計画を立てることで、学習のゴールまでの内容のイメージをつかめるようにする。先の活動への見通しだけでなく、振り返りにも活用できるようにしていきたい。

ゴールで身に付けるべき力を意識し、毎時間振り返りを積み重ねることで自分の学習の状況を把握できることから、主体的に学習することにもつながると考える。

また、振り返りをして終わりではなく、児童個人の振り返りを全体の学習に生かせるように、共有が必要な振り返りや気づきを掲示物や次時で紹介することも意識していきたい。

#### ②読み方を意識させるための工夫

実態調査からもわかるように、文章のどこに注目して読み進めていけばよいのかということが、まだ身に付いていない児童が多い。物語文『川とノリオ』の学習では、優れた表現に注目する「表現読み」大体の話の流れをつかむために出来事に注目する「話の流れ読み」等、何に注目して読んでいるのかを意識させるため、児童の意見を生かしながら読み方に名前をつけて進めてきた。本単元でも、筆者の問いかけに対して自分の考えを形成するための「対話読み」や、筆者の考えを読者にわかりやすく伝えるために、どのように論を展開しているのかに注目させるための「特徴読み」、これまで学習した説明文との違いや工夫を見つけるための「比較読み」等を取り入れながら、できるだけ自分の力で読み進めることで、読むことが苦手な児童も文章を理解して読み進められるようにしていきたい。

#### <仮説2>

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。

調査によると、本学級の児童は説明文の学習を苦手としている児童が多く、その理由が「筆者の主張を自分で読み取ることができない」「読み取ったことを短くまとめることが難しい」「筆者の考えに対して自分の考えをもつことが苦手」だということがわかった。この単元では特に「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめるということができるようになっていきたい。

そこで、以下の点に重点を置いて指導にあたる。

### ①考えを形成するためのワークシートの活用

特に読み取りを苦手とする児童の中には、同時に板書を視写することや、ノートを整理して活用することが難しい児童が多い。個人差も大きいので、単元を通してワークシートを活用して、学んだことを積み重ね、振り返れるようにしていきたい。中でも、筆者の考えに対して自分の考えやそう考えた理由を書くことに難しさを感じている児童も多いため、自分の考えを形成させるためのワークシートの工夫を図っていこうと思う。自分の立場（納得、よくわからない・そうは思わない）を色分けした付箋を使うことによって、友達との比較や考えを明確にしていくことに役立てていけるようにしたい。また、付箋を使うことで、文章を書くスペースを少なくする。要点のみを短い文章にまとめなければならないため、大事なことを簡単にまとめるということに児童の意識を向けることができるのではないかと考える。

### 3 単元の見直し

- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能】

- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができる。
- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・進んで筆者の考えに気を付けながら、文章の要旨を捉え、自分の経験をふりかえりながら「心の世界」について考えようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

### 4 指導と評価の計画 全11時間（本時 7/11）

学習過程	時	主な学習内容と学習活動	評価規準・評価方法
第一次	1	○犬と猫の会話、りすとかえるの会話をもとに自分たちにもある感じ方や考え方の違いについて話し合う。	【知・技】 発言・ワークシート 情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 【思・判・表】 発言・ワークシート 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【主体的】 観察・発言・ワークシート 進んで文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習課題に沿って友達と自分の感じ方の違いについて考えようとしている。
第二次	2 3	○一読後の感想を書く。 単元文やリード文を読んで、学習の見通しをもつ。（単元のゴール、付ける力、学習の進め方を確認する。） ○体験と、体験から感じた筆者の思いを結び付けて、筆者の「大きな問い」を読み取り、自分たちの経験と結びつけて考える。	【知・技】 発言・ワークシート 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。 【思・判・表】 ワークシート 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

	4 5 6	<p>○「大真面目に議論されてきた問題」を解き明かすため、具体例や筆者の意見を叙述をもとにとらえる。</p> <p>○「大真面目に議論されてきた問題」に対する筆者の意見を読み、文章全体の構成をとらえる。</p> <p>○文章の要旨をつかむ。</p> <p>○筆者の考えの進め方について、これまでに読んだ説明文と比べながら、どのような特徴があるか話し合う。</p>	<p>【思・判・表】ワークシート 目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。</p> <p>【思・判・表】ワークシート 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>【主体的】観察・発言・ワークシート 進んで筆者の考えに気を付けながら文章の要旨を捉え、自分の経験をふりかえりながら、「心の世界」について考えようとしている。</p>
	7 (本時) 8	<p>○読み取った筆者の考えをもとに、自分の考えをまとめる。</p> <p>○『ぼくの世界、君の世界』を読んで考えたことをもとに、「心の世界」について考えて書く。</p> <p>○友達と交換して読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>【思・判・表】ワークシート 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>【主体的】観察・発言・ワークシート 進んで筆者の考えに気を付けながら、文章の要旨を捉え、自分の経験をふりかえりながら、「心の世界」について考えようとしている。</p>
第 三 次	9	<p>○「うれしさ」について考え、互いの感じ方を伝え合うという学習の見通しをもつ。</p> <p>1. 「うれしさ」について考える。</p> <p>2. 「うれしさ」を感じた体験をカードに書く。</p>	<p>【知・技】発言・ワークシート 原因と結果など、情報と情報の関係について理解することができる。</p> <p>【思・判・表】観察・発言・ワークシート 互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。</p>
	10 11	<p>3. 「うれしさ」について話し合い、分類する。</p> <p>4. 発表し合い、感想を交流する。</p> <p>○話し合いを通して気づいたことや、残った疑問などをまとめる。</p>	<p>【思・判・表】観察・発言・ワークシート 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>【思・判・表】観察・発言・ワークシート 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</p> <p>【主体的】観察・ワークシート 積極的にお互いの考えや意見を関連付けて述べ合い、今までの学習を生かして共通点や相違点をもとに分類しようとしている。</p>

5 本時の指導

(1) 目標

・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

【思考力・判断力・表現力】

・進んで筆者の考えに気を付けながら、文章の要旨を捉え、自分の経験をふりかえりながら「心の世界」について考えようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展開

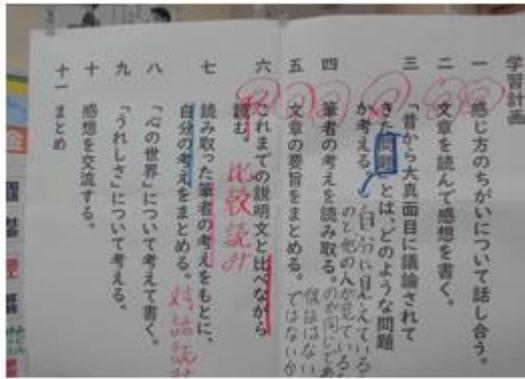
時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) と評価 (◎)	資料
3	1 学習計画表で本時の課題を確認する。	○学習計画表を使い、振り返り、見通しが行えるようにする。〈仮説1〉	学習計画表
	<p>◎自分の視点をもって文章を読み、考えを深めよう。</p>		
2 2	2 自分の考えをワークシートにまとめる。	○「対話読み」の視点や、ワークシートの記入の仕方を確認する。 付箋の色 ①筆者の考えや言いたいこと…黄 ②自分の考え…ピンク (共感) 青 (よくわからない、そうは思わない) ③友達からのコメント…緑 ○これまでのワークシートを振り返り、筆者が投げかけている考えや言いたいことを捉える。 ○読み方の視点を意識できるよう掲示物を用いる。 〈仮説1〉 ○筆者の主張と対話することを意識した「対話読み」の読み方で読むことで、自分の考えをもてるようにする。 ○ワークシートに作者の主張に対する自分の意見を色分けしてまとめさせることで自分の考えを明確にできるようにする。 〈仮説2〉 ○これまでのワークシートも使って、自分の変容や筆者の主張などまとめたことの振り返りができるようにする。	ワークシート 付箋 掲示物
	<p>読む時の視点 (1)考えに対してどう思うか (共感、反対、よくわからない) (2)気になる文 (3)自分にも似た経験があるか (4)一読後の自分の感想と比べる</p>		
10	3 友達とワークシートを交換して、意見の交流をする。	○友達の多様な考えを知るために、ワークシートを交換する。(グループ)  ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【思考力・判断力・表現力等】	

7	4 本時の振り返りをする。	<p>A：筆者の意見に対して、自分の立場や理由を明らかにしたり、友達の意見を参考にしたりにして考えをまとめることができる。</p> <p>B：筆者の考えに気を付けながら、自分が考えたことをまとめることができる。</p> <p>C：読み取り、考えをまとめることが難しい児童には、助言に基づいて考えを書くことができるようにする。</p> <p>○学習計画表に振り返りを書き込む。</p> <p>◎進んで筆者の考えに気を付けながら、文章の要旨をとらえ、自分の経験をふりかえりながら「心の世界」について考えようとしている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>A：筆者の考えについて、自分の経験と結びつけながら学習を振り返ることができる。</p> <p>B：筆者の考えに気を付けながら、学んだことについて振り返ることができる。</p> <p>C：まとめることが難しい児童には、学んだこと、筆者が言いたいことに対して自分はどうか考えるかなど、視点を与えて振り返りができるようにする。</p>	
3	5 次時の活動の予告をする。	○次時では、本時にまとめた「自分の考え」を使って文を書くことを確認する。	

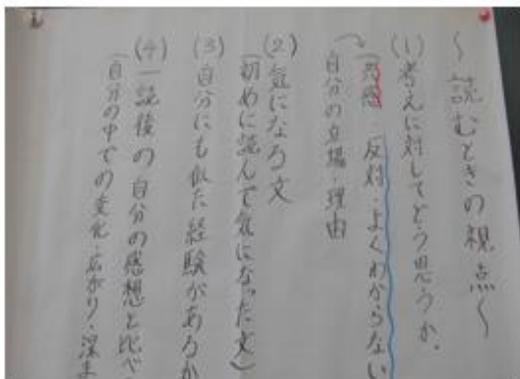
(3) 板書計画

<p>☐ 友達と交流しよう。</p>	<p>☐ 「対話読み」をしよう。</p> <p>（読む時の視点）</p> <p>(1) 考えに対してどう思うか （共感、反対、よくわからない） →自分の立場、理由</p> <p>(2) 気になる文 （初めに読んで気になった文）</p> <p>(3) 自分にも似た経験があるか</p> <p>(4) 一読後の自分の感想と比べる （自分の中での変化、広がり、深まり）</p>	<p>自分の視点をもって文章を読み、考えを深めよう。</p>
--------------------	---	--------------------------------

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。



児童と一緒に学習計画を立てることで、学習のゴールまでの内容のイメージをつかめるようにし、ゴールで身に付けるべき力を意識して毎時間振り返りを積み重ねていった様子。



読むことが苦手な児童も文章を理解して読み進めることができるように、どのような視点で読み進めればよいかを掲示したもの。

仮説2

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。



筆者の考えと、それに対する自分の考えなどを色分けした付箋に書き込み、ワークシートに貼り付けている様子。



自分の考えを形成させるために、自分の立場（納得・よくわからない・そうは思わない）によって色分けした付箋を使うことによって、友達との比較や考えを明確にしていく様子。



ワークシートに自分の考えを表現し、自分とは違う考え方や同じ考え方の視点が分かりやすくしながら、友達と交流する様子。

## 成果と課題

### 仮説 1

- 学習計画表をつくることで、見通しをもって学習に取り組むことができた。また、今までにどのようなことを学習してきたのかを振り返る材料としても有効だった。
- 「表現読み」「話の流れ読み」「対話読み」「比較読み」「特徴読み」等、読み方を意識させるための工夫をしてきたことが、一人一人の読みへの意識につながった。
- 学習計画表を活用した振り返りは毎時間できたが、振り返りの内容を次の時間にあまり生かせなかった。

### 仮説 2

- 色の違う付箋を使ったことで、何について読み取れば良いのかがはっきりした。これにより、筆者の考えについて自分はどう思うかが対応して、一目で分かるようになった。友達からコメントをもらう際にも理解しやすかった。
- 付箋を活用したことで、大事なことを短い文章で要約する力がついた。
- 視点を明確にして読み取ることはできたが、読み取ったことをどうまとめるかなど、アウトプット面で工夫が必要だった。

令和3年1月  
指導者

1 単元名 つたえたいことを みぶりで あらわそう ～みぶರಿクイズで つたえよう～  
(主な教材：『みぶりで つたえる』 東京書籍)

2 単元の見標

- ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。  
〔知識及び技能〕(1)ア
- ・文章の内容と自分の経験とを結びつけて、感想をもつことができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
- ・文章を読んで感じたことやわかったことを共有することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ
- ・積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめ、伝え合う。  
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

つたえたいことを みぶリクイズで つたえる (関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の見標を踏まえ、伝えたいことを「みぶリクイズ」で伝え合う言語活動を設定した。

ここでは、児童が日常生活で無意識のうちに用いているみぶリを取り上げ、そのはたらきを言葉と比べながら内容の大体を読むとともに、みぶリのはたらきについて簡単に説明する文章を書き、伝え合うことを目的としている。

児童は今までに、「わかりやすく説明する方法として、「だれがたべたのでしょうか」の学習で「問いを立てて答える」かたちを学習した。また、「はたらくじどう車」の学習で、「要旨を示してから詳しく解説する」かたちも学習しており、本教材もこの形で説明がされている。また、「のりものカードでしらせよう」の学習で、読み取ったことを基にカードを書いて紹介するという言語活動も行ってきた。

1年生の児童は経験や語彙が少なく、自分の気持ちがあまく伝えられないことが多くある。そんな時には、無意識に「みぶリ」を使って気持ちを伝え合う経験をしていることが多い。そんな「みぶリ」には、意味や意義があることを知り、言葉だけでない思いの伝え合いができることを知り、様々な表現方法で相手とつながることができるようにこの単元を設定した。

(2) 児童の実態

児童はこれまでに物語や説明文を読み、大事なことや登場人物の気持ちを読み取る活動を経験している。

国語の勉強では、読む学習に関心が高い児童が3割で、書く学習に関心が高い児童が4割、話す・聞く学習に関心が高い児童が3割という結果だった。その中で、文章を読んで大事なところを見つけることが得意だと答えた児童は6割と約半数だった。「はたらくじどう車」のワークテストの結果からも、8割以上読み取れている児童が8割で、その中でも読み取りを苦手としているのは1割以下という結果だということが分かった。

ここで学習する「みぶリ」については、言葉の意味を知っている児童が2割だった。また、知っていると答えた児童も手や体で気持ちを表現するというように答えた児童は1割以下だった。自分の気持ちがあまく伝わっていると考える児童は6割いたが、相手に気持ちを伝える方法として行っているのが、「大きな声でしゃべる」「言葉で伝える」と答えた児童がほとんどだった。

その中で、「表情で伝える」「手で伝える」と答える児童は1割以下だった。一方で、実際にみぶりをを使って考えを表したところ、意図を理解して答えた児童は9割をこえていた。

### (3) 指導観

#### <仮説1>

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。

児童は、読む活動を好んでいても、大事なところを読み取ることが苦手な児童が半数近くいるということがわかった。このことから、読み取るための方法として、絵を説明しているのがどの文か分かるように、絵と文をつなぐことができるようなワークシートを用意する。ワークシートを振り返ることによって、みぶりとその意味とみぶりの良さをいつでも振り返ることができるようにする。これにより、気持ちを伝えるみぶりについての理解が深まると考える。

#### <仮説2>

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。

気持ちが伝わらなかったことがあると答えた児童は、自分の気持ちを伝える手段として「言葉で伝える」と答えた児童が多く、表情やみぶりを使うと伝わりやすいという意識は低いことが分かった。このことから、身振りの良さについて学習した後、より気持ちを伝える方法としての「みぶり」や「みぶり」と「言葉」を合わせて考え、「みぶりクイズ」を出し合う言語活動を設定する。その際には、ペア活動や班活動などを行い、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いて新しい考えに出会ったりする場の設定をする。また、自分のみぶりをタブレットで撮影し、伝わる「みぶり」になっているかまわりの人と確認し合うと良いことを伝え、お互いの意見を取り入れ合うことにも活用する。

これにより、様々な表現方法で相手とつながることができるようになると考える。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。  (1)ア)	①「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。 (C(1)オ) ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことやわかったことを共有している。 (C(1)カ)	①積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめ、伝えようとしている。

6 指導と評価の計画（全14時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	○単元名やリード文から学習の見通しをもつ。 身振りや手振りのことで知っていることや、自分が行ったことがあるジェスチャーについて話をする。	○みぶりについて説明する文種を書き、内容を伝え合う「クイズ大会」を開くことを伝え、学習の見通しをもたせる。	○[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ノート① ・自分が知っているみぶりについて意欲的に発表しようとしている。
第二次	2	○書かれていることの大体を確かめる。 (1) 挿絵に番号を付ける。 (2) どの文がどの絵のことを説明しているか、確かめる。	○文章と挿絵を対応させるために、絵と文を線で囲む。	[知識・技能①] ワークシート(1) ・文章と挿絵を対応させて線で囲んでいる。
	3	○文章と絵から話していることを想像する。	○ふきだしを書く際は、自分の言葉で書いてよいことを伝える。	[思考・判断・表現①] ワークシート(2) ・絵や文章から想像したことを自分の言葉で書いている。
	4	(1) 絵にふきだしをつけて、どんなことを伝えようとしているかを書く。	○隣同士や班で自分の考えを伝えることで、自分の考えをはっきりさせたり、新しい考えに出会ったりすることができるようにする。	[主体的に学習に取り組む態度②] 観察・ワークシート(3) ・教科書に載っていないみぶりを考えている。 ・みぶりで表せない物もあると気付いている。
	5	(2) 書いたことを伝え合う。		
	6			
7	○日常生活の中にあるみぶりてぶりについて考える	○日常生活での経験を話し合うことで、みぶりで表せることと表せないことがあることに気づけるようにする。 ○みぶりが伝える内容だけでなく、伝える効果についても考えることができるようにする。		

第三次	8	○日常生活の中にあるみぶりがあ	○①みぶりがあ	<p>[思考・判断・表現②] ワークシート③</p> <p>・みぶりについて考え、説明する文を書くことができる。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度③] 観察・ワークシート(3)</p> <p>・積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめ、伝え合っている。</p>
	9	を説明する文章を書き、班で紹介	と③みぶりの良さという内容で	
	10	合う。 ・タブレットで撮影し、確認する	考えるとよいことを伝え、黒板に内容を掲示しておく。	
	11	・見た人につたわったか確認し、「もっと良くなるアドバイス」をもらう。	○班で紹介し合うことで、自分の考えをはっきりさせたり、新しい考えに出会ったりすることができるようにする。	
	12	・作り直して更に伝わりやすいものにする。	○学習感想を書くことで、自分の考えをはっきりさせ、考えが深められるようにする。	
	13	○班で1つ紹介するみぶりを決め、「みぶりクイズ」を発表する。		
14	○学習を振り返る。			

## 7 本時の指導

### (1) 評価規準

- ・文章と挿絵を対応させて線で囲んでいる。 【知識・技能】
- ・絵や文章から読み取ったことから想像を広げ、自分の言葉でみぶりについて書くことができる 【思考力・判断力・表現力】

### (2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 今までの学習を振り返り、本時の学習と学習のめあてを知る。 【見いだす】	・相手に伝わるような「みぶりクイズ」をつくるという目的をはっきりさせる。	学習計画表 資料提示 P C
	文をよんで、どんな気持ちをつたえるみぶりかかんがえよう。		
20	2 書かれていることの大体を確かめる。(3場面) (1) 挿絵に番号を付ける。 (2) どの文がどの絵のことを説明しているか、確かめる。 【自分で取り組む】	<p>・文章と挿絵を対応させるために、絵と文を線で直接囲めるようなワークシートを用意する。</p> <p>○ワークシート [思考・判断・表現①] 《「努力を要する」と判断した児童生徒への手立て》</p> <p>・みぶりは赤、気もちは青でかこむことで、どのような意味のみぶりかが考えられるようにする。</p> <p>○ワークシート [知識・技能] ・文章と挿絵を対応させて線で囲んでいる。</p>	ワークシート タブレット

	<p>3 文章と絵から話していることを想像する。</p> <p>(1) 絵にふきだしをつけて、どんなことを伝えようとしているかを書く。</p> <p>(2) 書いたことを伝え合う。</p> <p style="text-align: center;">【広げ深める】</p> <p>1 0</p> <p>・「見方・考え方」を働かせながら自分の考えを伝え、友達考えを聞いて疑問点を問い直す等、互いに学び合うことを通して多様な考えがあることを理解する。</p> <p>5</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">【まとめあげる】</p> <p>・振り返りで「何が分かったのか、何が身に付いたのか、何が課題であるのか」等、自分の言葉で学習のまとめを書く。</p>	<p>・ふきだしを書く際は、自分の言葉で書いてよいことを伝える。</p> <p>・隣同士や班で自分の考えを伝えることで、自分の考えをはっきりさせたり、新しい考えに出会ったりすることができるようにする。</p> <p>○観察・ワークシート[思考・判断・表現] ・絵や文章から想像したことを自分の言葉で書いている。</p> <p>・次回はどんなみぶりをどんなときに、どんなことをつたえようとしてつかうのかかんがえることを伝え、次時の意欲を高める。</p>	<p>自己評価表 振り返りカード</p>
--	--	---	--------------------------

(3) 板書計画

ふりかえり

わたしたちは、じぶんの 気持ちや かんがえを、  
まわりの 人と つたえあて、  
くらしています。  
ことばだけで、なく、  
[ ]を じょうずにつかうと、  
つたえたいことを はっきり あらわせるように  
なるのです。



また、みぶりは、  
とくに [ ]を [ ]  
あらかず [ ]が [ ]  
うれしいときは、  
りよう手を上げて  
ばんさいをします。  
こまったときには、  
うでを くんだり、  
あたまに 手を  
あてたり します。

このように、うれしい、  
たのしい、かなしい、  
こまったなどの 気持ちは、  
みぶりを つかうと、  
よく つたわります。

みぶりで つたえる

し名)

文を よんで、どんな 気持ちをつたえる  
みぶりが かんがえよう。  
○みぶりは、赤、気持ちは、青で、かこみましよう。

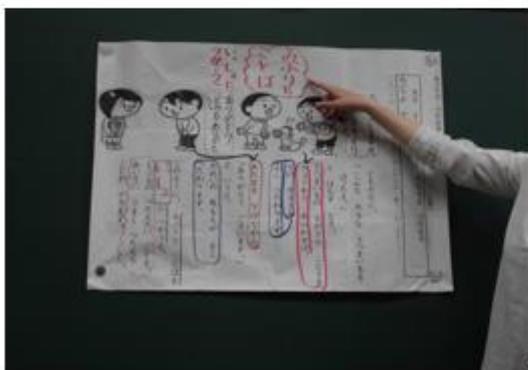
実践

仮説1

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。



絵を説明しているのがどの文か分かるように、絵と文をつなぐことができるようなワークシートを用意し、記入している様子。↵



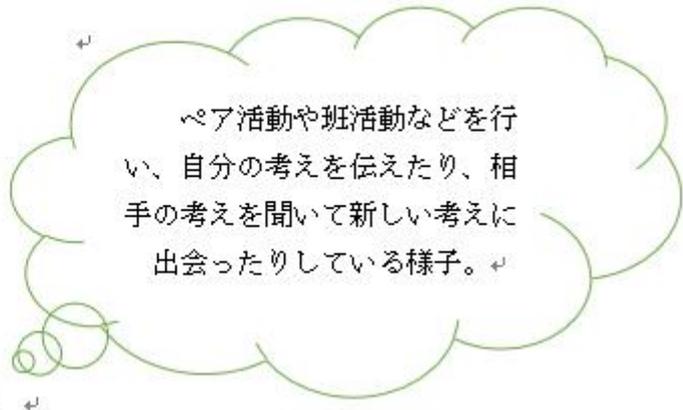
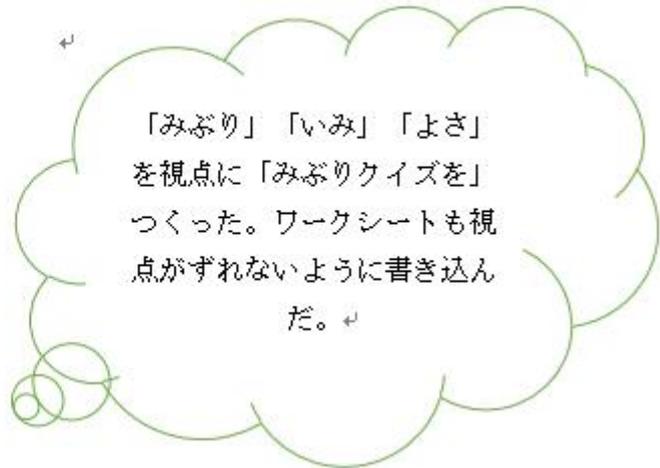
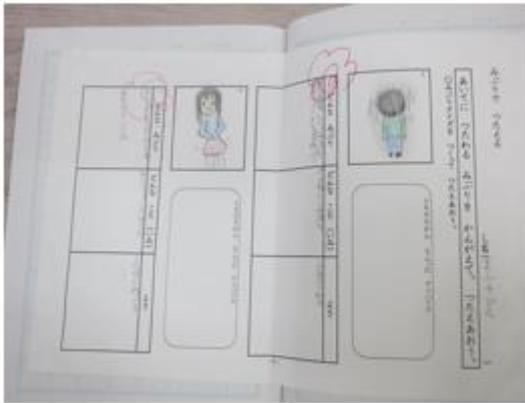
みぶりの絵とそれを説明する文を学習した後で、みぶりが表す気持ちも一緒に書き入れ、それを紹介している様子。↵

仮説2

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。



みぶりの良さについて学習した後、より気持ちを伝える方法としての「みぶりがイズ」を出し合っている様子。↵



## 成果と課題

### 仮説1

- みぶりクイズをつくってほかの学級の友達に紹介するという目的意識をもつことで、自ら身振りに対する理解を深め、得た知識を生かして主体的に活動することができた。
- 絵を説明しているのがどの文か分かるように、絵と文をつなぐことができるようなワークシートを用意した。これにより、気持ちを伝えるみぶりについて理解が深まった。
- 前時までの学習を掲示物で振り返ることで、学習した内容を積み重ねることができた。
- ワークシートの情報量が多く、どこを活用していいかわからない児童がいた。

### 仮説2

- 自分が考えたみぶりクイズを紹介することで、それまでに読み取ってきた「みぶり」「いみ」「そのみぶりのよさ」への理解を深めることができた。
- グループ学習やペア学習などが十分にできる環境ではなかったため、お互いのクイズについて意見を出し合ったりより良いものに変えたりすることが難しかった。

## アンケート結果から

質問		授業前	授業後
国語の勉強は好きですか。	はい	77%	92%
	いいえ	23%	8%
どのような勉強が好きですか。	読むこと	26%	31%
	書くこと	42%	33%
	話すこと・聞くこと	32%	36%
文章を読んで大事なところを見つけるのは得意ですか。	得意	54%	59%
	苦手	46%	41%
勉強したことを生活に生かしたことはありますか。	ある	25%	65%

アンケートの結果から、ワークシートを活用して学習の見通しや目当てをはっきりさせることで、課題を「自らの学習」としてとらえ、意欲関心を高めることができた。また、最終ゴールの設定による学習の積み重ねを感じさせることも、意欲関心を高めることにつながった。

振り返りを生かした課題づくりでは、前時までの学習を掲示物で振り返ったり、「きょうのできた」を自己評価することにより、読み進めてきたことへの理解が深まり、新しい読みへの力になった。このことが、「読むこと」の学習への関心が高まったことへつながった。また、読みが深まったことで、自分の考えを話したり聞いたりすることへの自信にもつながった。書くことについては、漢字やひらがなの練習をすることが好きと答えた児童が多かったが、「文を書く」という点で苦手と考える児童が増えたと考える。

以前は文章から大事なところを見つけることが苦手だった児童も、教科書やワークシートに線を引いたり困んだりする活動を繰り返すことで、大事なところを見つける力がついた。テストなどでも、読みながら線を引いて考える児童が増えた。

「みぶりであらわす」の学習については、言葉でうまく伝えられなかったことが、みぶりも一緒に使うことで相手により伝えられるようになったと感じ、生活の中で活用する児童が増えた。

# 仮説 1 の取り組み

## 仮説 1

課題との出会い方や振り返り方を工夫し、目的意識をもつことができれば、児童は主体的に学習に取り組むだろう。

- ワークシートを活用することで、学習のポイントとなる挿絵や写真、前時までの学習や友達の考えなどが振り返りやすかった。それにより、学習への目的意識や目当てがはっきりし、児童の意欲や関心が高まった。
- 単元のゴールがどうなるのかを紹介したり、教師が見本を提示したりすることで、児童が単元の見通しをもって学習することができた。特別支援学級でも見本は児童の興味関心を引き、「作りたい、やってみたい」と意欲を高めるきっかけとなった。
- 相手意識（6年生→1年生など）を明確にしたことで、目的意識を単元を通して持続することができた。
- 学習計画をノートに書いたり掲示したりしたことで、児童が見通しをもって学習に取り組めた。やること分かることで児童が主体的になり、自ら進んで読書をしたり伝えあいをしたりすることができた。
- 単元のゴールを設定し、学習計画や学習内容の掲示物を単元を通して目にするようにしたことで、ゴールまでにどのような学習をすればいいのかわかり、本時の課題を見い出す助けになった。
- 友達と交流する際には、「良いと思うところに『いいねシール』を貼ろう」などと活動を明確にすることで、意欲的に取り組んでいた。

## 課題

- 学習の課題が達成できたか、という視点が児童と共有できていなかった。学習の振り返りの仕方を更に工夫する必要がある。
- 児童の主体性をより引き出すような課題との出合わせ方の検討が必要である。
- 各授業の最後に、新たな疑問や次の学習に向けての課題意識をもたせない学年があった。低学年でも課題意識をもたせることができる言葉かけが必要だった。
- 終末で振り返った内容のフィードバックがあまりできなかった。学習前後での考え方の変容が分かるように、振り返りを生かした展開をしていく必要がある。

# 仮説 2 の取り組み

## 仮説 2

教科の特質を生かした言語活動を通して、実感を伴った理解ができれば、学びが深まるだろう。

- 自己評価だけでなく、自分の意見を書いたもの、作ったものを持って友達と交流することで多様な考えに触れることができた。それにより、友達と比較して自分の作品に手を加えたり、考えを変えたりするなど、学びを深めることができた。また、課題を見つけることにもつながり更に学びを深めることができた。
- 文章を読み取る際、登場人物の心情を「表情マーク」で表したり、毎回同じ視点で学習を振り返ったりすることで、低位の児童も取り組みやすくなった。
- 低学年は、自分の考えたことを動作化したり、登場人物になったつもりで話しをしたりすることで、より、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを理解したりすることができた。
- 付箋に自分と友達と同じ考えを書いていたらそれをまとめていくことで、どのような考えがより多く出ているのかや、学習を進めていく上での課題などが整理しやすかった。
- 帯をつくって図書室でおすすめの本を紹介するコーナーをつくった。「全校の児童におすすめの本を紹介する」という課題を設定して進めたため、より興味をもってもらえるようなアドバイスを考え、児童間で交流する姿が多く見られた。

## 課題

- 表現方法が評価項目やねらいからずれてしまい、これまで学習した内容が上手いかせない活動になることがあった。
- 児童がどんなことをすれば、どこまでいけば「深い学び」となるのかを授業者が明確にし、それを基に単元計画を立てていくことが必要である。
- 付箋やワークシートに書いて考えを交流することで、自分の考えを自信をもって伝えられる児童が増えたが、「書く」ことが苦手な児童にとっては、言語活動の深まる交流をもつまでに行かなかった。